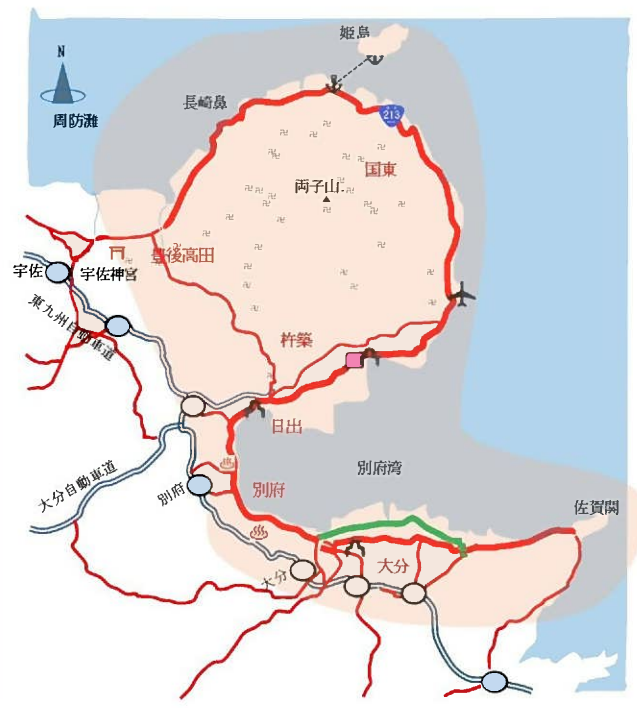


別府湾岸・ 国東半島海への道



大分市	別府市	杵築市	国東市	豊後高田市	日出町
47.9万人	12.1万人	3.0万人	2.8万人	2.3万人	2.8万人
面積 502 km ²	面積 125 km ²	面積 280 km ²	面積 318 km ²	面積 306 km ²	面積 73 km ²
2016/10/1 現在					

人のくに、美のくに九州 (日本風景街道 Q-12)



別大道路(国道10号)を行く (田ノ浦ビーチ (田ノ浦海浜公園))

目次

一 佐賀関から大分、泉都・別府へ

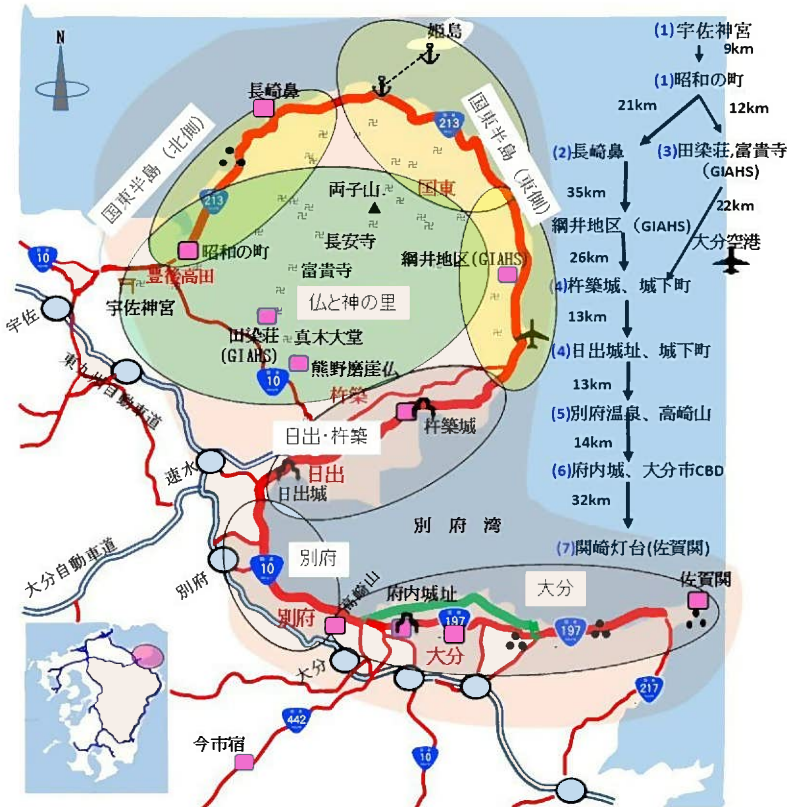
- 1 佐賀関から鶴崎、大分へ
- 2 泉都・別府めぐり
コラム 「関サバ関あじ 料理人『全ては美味のために』」

二 国東半島海への道を行く

- 1 日出から半島をぐるり
コラム 「昭和の街」街おこし奮戦記
- 2 世界農業遺産めぐり
- 3 城下カレイ

三 神と仏の里・国東半島めぐり

- 1 国東半島の西側―宇佐神宮と富貴寺、熊野磨崖仏など
- 2 国東半島の東側―神と仏の里、六郷満山めぐり
(参考1) 飯沼賢司別府大教授の話
「六郷満山の歴史と景観」
(参考2) 国東を愛した三浦梅園
(参考3) 写真家・藤田洋三さんの提案
「世間遺産プロジェクト 世間遺産発見に出かけよう」



一佐賀関から大分、泉都・別府へ

1 佐賀関から鶴崎、大分へ

(1) 佐賀関、白い灯台を巡って

岬の突端に立つと、四国が見える。指呼の間、と言ってよい。佐賀関・関崎から対岸の愛媛県・佐田岬、剣のように細く長く突き出した半島の四国側突端である。間に、高島がある。高島と佐多岬の間が豊予海峡。海峡幅わずか20km、豊後水道を北上してきた潮流がこの海峡でグッと速度を増す。太平洋と瀬戸内海の海の関所のようなものだ。速い潮の流れに生きる魚は身が引き締まって、美味しい。一本吊りの関アジ、関サバを知らない人はいないだろう。明治34年初点灯以来、100年以上も海の安全を守ってきた関崎の白い灯台（高さ11m）を回って、山が急に海に沈む断崖沿いの道を進る。車の離合が難しいほどの細い道、荒れた日には、波しぶきがかかる。がけ下に歌碑を見つけた。



佐賀関・黒が浜



佐賀関・漁港



森繁久弥の歌碑 (佐賀関)

鶴崎ほど激しく変貌した町はあ
るまい。高度経済成長のスタートに
なった新産業都市計画のトップを
切って、臨海工業地帯が造成され、
工場がひしめいている。工場群が放
つライト群が独特の「夜景」を作り
出している。遠く別府や日出、杵築
など国東半島からも、夜、海に向こ
うに光のかたまりが見える。
熊本藩主一行が「波奈之（なみな
し）丸」で船出した港は埋め立てら

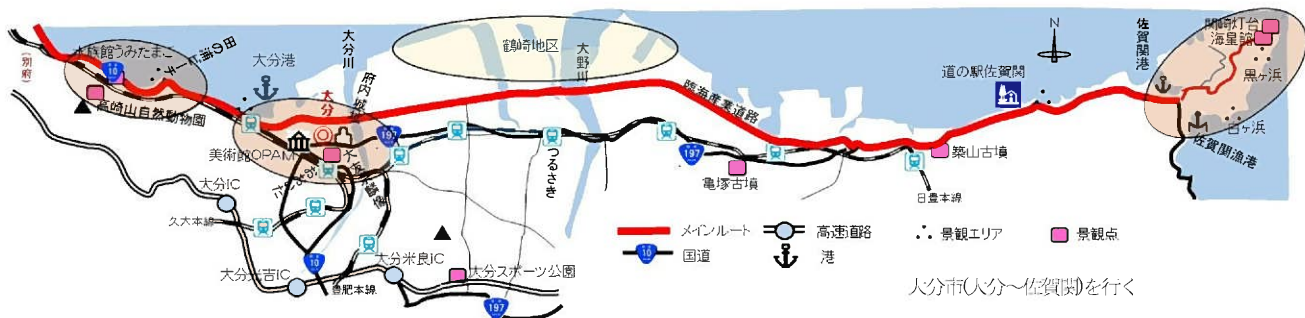
この鯨（ブリ）は夫婦ならんか帰り船
寄り添う如く雲見ていたり

その前の荒海に「姉妹島」、大小、小さな岩礁がしめ
縄で結ばれている。夕陽が似合う風景だ。小さな岬を
回ると、港町。漁から帰った白い船が港いっぱい並
んでいる。車1台がやっとの佐賀関の町並み散策（カ
イド付き・一人300円）、坂本竜馬が長崎へ旅した時
ここに上陸した様子などを説明してくれる。海を楽し
むには「うみねこ鑑賞と高島一周」の船の旅（一人30
00円）がある。

(2) 竜馬も海舟も上陸した鶴崎の港

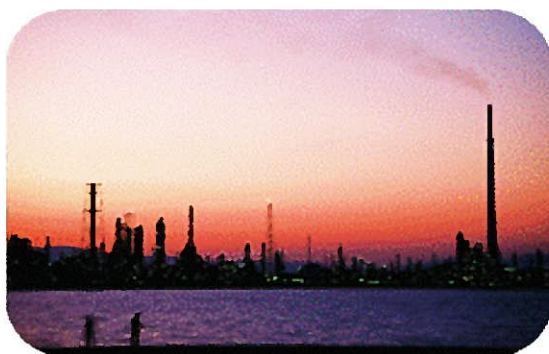
竜馬は、佐賀の関から「鶴崎」へ。鶴崎は豊後街道の
終点だ。熊本城から九州を横断して約125Km、5
泊6日の参勤交代、大名行列はこの港から瀬戸内海を
海路で通り、大阪から東海道、江戸へと、35日の長旅
だった。

豊後街道は加藤清正が拓いた九州横断道、鶴崎はそ
の最後の宿場―鶴崎御茶屋を置いた。広大な屋敷群（4
252坪）に濠が巡らされていた。現在は鶴崎小学校
と大分鶴崎高校になって、往時を偲ぶものはない。わ
ずかに、校庭の片隅に御茶屋跡の記念碑があるだけだ。





勝海舟と坂本龍馬の像(鶴崎)



大分臨海工業地帯(大分市鶴崎地区)

れ、工場製品の積出港となつてゐる。その様子は銀八幡宮に絵馬として奉納されている。50隻から70隻の船が一斉に船出する光景は壮観だつたろう。鶴崎の歴史を大切に思う人びとは多い。御茶屋跡を探して学校周辺を歩いていると大野川と乙津川に挟まれた道沿いに、坂本龍馬と勝海舟の銅像が並んで立っていた。

幕末の儒学者・毛利空桑(1797~1884)の記念館前。「司馬遼太郎さんの『龍馬は行く』で勝と龍馬は小倉経由で長崎に向かつたとあるけれど、実際はこの鶴崎と豊後街道を歩いたのです(資料館員)。「龍馬は行く」はあまりに有名で、このままでは史実と違い、鶴崎が忘れられると危機感を持つ人たちが「確たる史実」を残すため、募金して二人の銅像を建立したのだという。

「空桑は今では知る人は少ないかもしれないが、幕末の尊王思想家として彼の思想を学ぶため、長州の志上をはじめ全国から人が集まつた。海舟も龍馬もそのために鶴崎に泊まつているのです。確かに、伊能忠敬や、吉田松陰、谷干城ら江戸から明治にかけて活躍した人々の足跡が鶴崎に残っている。空桑は私塾「知来館」を開き、門下生は890人に及ぶ。湯布院「金鱗湖」の名付け親でもある。鶴崎は豊後街道の宿場として肥後藩が「飛び地」として領した。大分・豊後には3つの肥後藩の飛び地・二万三千石があり野津原、久住の御茶屋を置いている。

(3) 別府湾海への道―ドライブ、ウォーキングを楽しもう。

大分市から別府へ、別府湾沿いの道(国道10号)は車道が6車線と車線が広く、海を眺めながらの素敵なドライブが楽しめる。ウォーキングやサイクリングの専用道路も備え、日本でも屈指の美しい国道となつた。このコースは別大マラソンの舞台ともなつて

ももとは車線が狭く、道路と列車(JR日豊本線)が肩を並べて、海に迫る山沿いを走っていた。過去に、電車が豪雨による山崩れで埋まり、多数の死傷者をだし、交通止めに追い込まれることも多かつた。海側に拡幅するほかないが、波しぶきを浴びる恐れがあるため、高い防潮堤を造らなければならない。それでは、海の眺望はコンクリート壁にさえぎられてしまう。

そこで弓形に凹んだ消波堤(フレア堤)を採用、海への視界を遮らないようにして拡幅、車だけでなく、遊歩道、自転車道も潮風を感じながらウォーキングやサイクリングが楽しめる「風景街道」になつた。

ドライブしていると「寄り道したくなるスポット」が多い。

まずは田ノ浦ビーチ。海水にできる人工海浜と橋で渡れる「人工島」が南の島イメージを演出する。人工島の海辺を歩くと、大きな魚が悠々と泳いでいる。禁漁区なので、

味三昧料理人・西岡一雄さん

波静かな別府湾を船出すると、流れの速い伊予海峡、豊後水道に出る。ここは大分県の屈指の好漁場で、荒波にもまれた関アジ、関サバが一本釣りされる。身がしまり、その刺身は屈指の海の味として名高い。

割烹「西岡」(大分市都町3丁目)の料理人・西岡一雄さんにその味の魅力を聞いた。「秋から冬にかけて、関サバ、関アジは太り、油が乗って一番うまい時季と言えるでしょう。えさが豊富な、豊予海峡の早瀬、岩礁に居つき育っている。マサバですが、佐賀関の沖合で一本吊りした700gから1kg、40cmの大型サバで、網にかかったサバは関サバとは呼ばない。神経質で弱い、デリケートな魚なのです。一本一本に「関の一本釣り、関あじ」のタグが付けられている。20年前、大分漁協からブランド化の相談を受け、料理人の立場から意見を申し上げた。

料理法ですか。私は3枚におろして、1と2晩置きます。何故かって?。大分の郷土料理「りゅうきゅう」

が漬け込み、おいしくなつて食べるのと同じで、熟成させるとうま味、甘みが出てくるからです。旬は秋、9月からです。産卵後、栄養をため込んで、青臭みが少ない。刺身が一番でしょう。大分のカボスとあいますな。

最近では東京方面で人気が高く、値段のいい、そちらに出荷される量が多く、地元では本物の量が少なくなつてるのが悩みですね。



コラム

魚たちも安心なのだろう。海水浴客など年間25万人の人が訪れるという。

人気は何といっても、高崎山（高崎山自然動物園）。野生のニホンサルが3群約1500匹暮らししている。檻もなく観光客近寄り、毛づくろいや授乳の様子をまじかに見ることが出来る。昭和二七年、野生のサルが増え農作物を荒らすとの訴えがあり、当時の上田保市長が駆除より観光資源にと、餌付けを試みた。最初リンゴでやってみたが失敗、高崎山の万寿寺別院の和尚のアイデアで、サツマイモの餌付けに成功した。そのいきさつを火野葦平が小説「ただいま零匹」を新聞連載し、一気に人気が高まった。



田ノ浦ビーチ (田ノ浦海浜公園)



高崎山とその麓にある自然動物園の1500頭に及ぶサル達



西洋医学術築洋館記念像 (大分県大分市)。中央が日本ではじめて外科手術をしたレイス・デ・アルメイダ

高崎山の麓には、大分マリンパレス「うみたまご」の愛称で親しまれている水族館。魚たちが周遊する水槽(潮流式回遊槽)を全国で初めて登場させた。イルカ、セイウチの演技も子供たちの人気の的で、入場者日本一を記録した。500種15000種を誇り、生態研究も続けられている。



キリシタン大名大友宗麟の像



府内城の二重櫓 (大給松平家の居城)



大分県立美術館 OPAM



マルセンワングースの作品の巨大卵 (OPAM)



安藤泉の作品「遊星散歩」のゾウ (大分市美術館)

を手に立っている。公園から遊歩公園を歩くと、馬に乗った天正遣欧使節の伊東マンシヨ像がある。ポルトガル商人アルメイダは外科医でもあり、牛乳で子供を育てる育児院、府内病院を創設して、我が国で初めての外科手術を行った。医療技術のほかさまざまな南蛮文化が根付いた。しかし、キリスト教は禁止され、キリシタンは長崎同様、激しい弾圧にあった。キリシタン殉教記念公園(大分市葛木)もある。

大分沖で遭難したリーフデ号の漂着も大分で、生存者の中には後に江戸幕府の外交顧問になるウイリアム・アダムス(三浦按察)もいた。

大分市内には、宗麟ゆかりの地が多いが、歴史の学びの場として「大友家体験学習館」があるほか、大友家の屋敷跡など遺構も保存、公開されている。宗麟は、現在の福岡県など北部九州にも版図を広げ、九州の大大名にのし上がったが、九州制覇をもくろむ鹿

(4) 歴史の道を辿ろう

大分市はクリスチャン大名・大友宗麟の城下町だった。大分駅前には剣を片手にした宗麟の銅像が立ち、迎えてくれる。洗礼を受け、キリスト教の布教を援助した。京都、長崎と並ぶ日本での布教の中心地となったのは宗麟の布教奨励によるものだ。そのため、フランシスコ・ザビエルを大分に招いた。ザビエル像は府内城のすぐ前、大手公園に十字架

児島・島津勢との戦い（宮崎・耳川の戦い）で宗麟自身が大敗、勇将、高橋祥運が守る大宰府・岩屋城の落城など、劣勢となり、豊臣秀吉に助けを請い、秀吉の「九州征伐」・島津降伏へと歴史を逆転させた。

しかし、嫡男の義統は朝鮮出兵での失策を責められ、大分の領地を奪われた。関ヶ原の戦いが起こると西軍につき、再び大分の地を奪回せんと杵築城攻め、さらに黒田官兵衛との石垣原の戦い（別府市）で敗れ、夢破れた。

(5) スポーツと美術を楽しむ

大友宗麟銅像の立つJR大分駅から歩いて約15分、建物をガラスで包んだような都市美術館・大分県立美術館OPAM(大分市寿町)がある。天井は大分特産の竹細工をモチーフとした骨組み。建築家・坂茂氏の作品で「出会いと五感のミュージアム」がコンセプトだという。それだけにだけに、世界に類似の美術館がないユニークさで、イベント、展覧会も地方と世界を結ぶ「グローバル」を貫いている。

それに比べて、大分市美術館はオーソドックス。上野丘こどもも公園内にあり「楽しんで、見て、学ぶ」がコンセプト。展示作品も、福田平八郎、高山辰雄ら明治から現代までの日本画、田能村竹田(関連資料が国重文)、生野祥雲齋の竹細工作品、近代・現代の洋画などが鑑賞できる。敷地内には上野遺跡も整備保存されている。

大分トリニータの本拠地「大分銀行ドーム」では、日韓共催のワールドカップが行われるなど、大分はサッカー熱が高い。大分トリニータはJ1、J2からJ3に陥落したが、2016年にJ3で優勝し、見事J2に返り咲いた。今後のさらなる活躍に、より一層ファンは期待を寄せている。

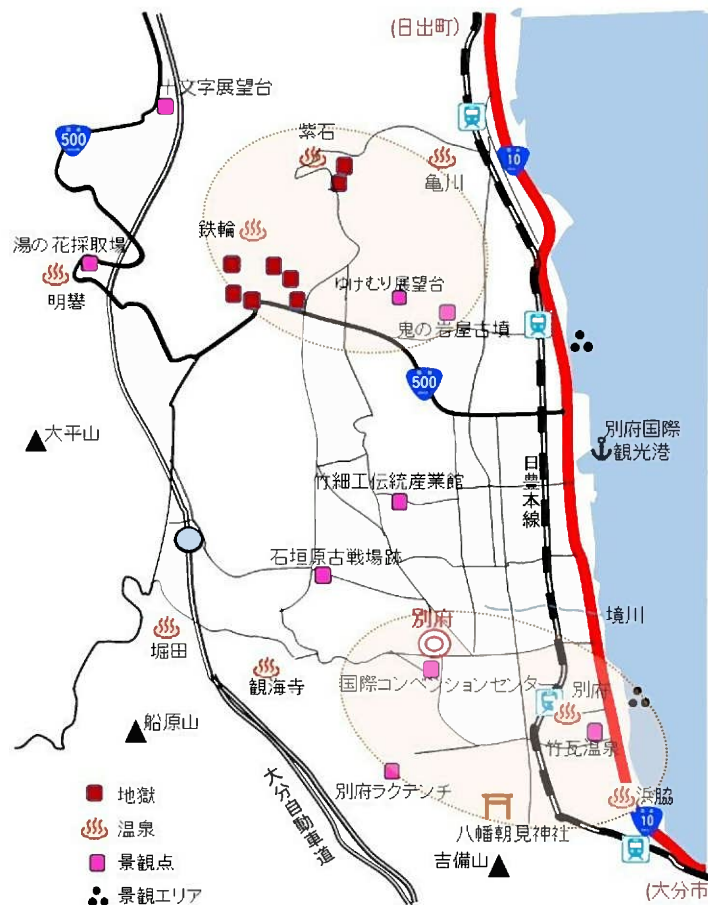
2 泉都・別府めぐり

湧水量、源泉数共に日本一の別府。おんせん県大分の泉都は鉄輪・明礬温泉を中心に市内いたるところで湯煙が立ち上る。別府八湯と言われるように泉質や情緒、趣がそれぞれ特色を持つ温泉がある。JR別府駅前には、別府を全国にPRした油屋熊八さんの銅像が、飛び上がって迎えてくれる。東九州道が平成28年4月、宮崎まで開通、大分道と合わせて、九州中からのアクセスがより早く、便利になった。

温泉だけではない。地底から湧き上がる熱湯などマグマの鼓動を実感できる地獄めぐりから、国道10号線・別大道路沿いには野生の猿で人気の高崎山、水族館「うみたまご」、人丁海浜「田ノ浦ビーチ」など観光スポット、とり天にはじまり、地獄蒸し料理か



別府駅前の油屋熊八の像



温泉と地獄をめぐる別府地区

ら関サバ・関あじまでグルメも楽しめる。

湯の街・別府の案内は、ガイドの平野芳弘(平野資料館館長)さんにお願しよう。「別府の魅力は何といっても温泉です。竹瓦温泉など別府八湯ウォークのほか、夜の路地裏散歩など年間約1万人の方々をご案内しています。別府を全国区にした油屋熊八の足跡を訪ねるツアーもあります。別府の八十八湯を巡ると「温泉道」を極めたとして「名人」の称号が与えられます。全国からもう五千人の温泉名人が誕生しています。

そう、別府駅前に両手を伸ばして、飛び跳ねるような銅像がありますね。彼が熊八さんです。「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」というキャッチフレーズを作って、別府を売り出した人です。ホテルや観光バスなど彼の業績は、誠に大きい。別府観光の恩人です。



湯煙あげる別府のまち

別府は温泉のほか山と海の三拍子揃った景観の素晴らしい街です。温泉に根付いた歴史、文化も奥が深い。別府は戦災に遭っていませんから、昔の町並み、古い別荘などが残っている。勿論、古くなって解体されたりしたところも多い。かの有名な歌人白蓮さんの御主人・伊藤伝右衛門さんの赤銅「あかがね」御殿もありましたし、福岡の炭鉱主が競って別荘を建てたのが別府です。そうした古いものを再発見して、別府の魅力を皆さんに伝えたい。

そんな思いから、造ったのが平野資料館です。別府に関する古今の資料を集めて約40年、2万点、古いポスター、写真はじめてみるようなものを集めています。別府をとことん楽しむためにも、ぜひ、ご覧下さい。

別府八湯ウォークⅡ別府八湯と呼ばれる鉄輪、浜脇、観海寺、明礬、堀田、柴石、亀川の八つの温泉地を地元ボランティアの案内で歩く。一〇コースが用意されている。

【問い合わせ、連絡先】別府八湯ウォーク連絡協議会事務局(平野資料館) TEL0977-2314748

別府温泉道Ⅱ別府温泉八十八湯を巡り、「スパポータル」にスタンプを押してもらおう。全てまわり終わると「温泉道名人」の黒タオルがもらえる。



竹瓦温泉(公衆浴場)



加藤 千明さん

「別府には別荘文化がある」と持論を展開するのは、加藤千明さん(風景街道「別府湾岸・国東半島海べの道」事務局長)

「研究者によれば、別府の別荘は200余り。戦前の黄金期は、個人別荘が主流で、

柳原白蓮と宮崎駿介の恋に舞台となった伊藤伝右衛門の赤銅「あかがね」御殿、麻生別荘、中山製鋼の中山別荘、駅裏喫茶の「信濃屋」は大豊炭鉱のものでした。久留米耕の大問屋の別荘も健在です。

戦後の黄金期の主役は進駐軍のキャンプと企業保養所で、大分に支店はなくとも三菱銀行の別府寮など名だたる企業保養所が林立。今でも、流川通りでは別荘資材を一手に引き受けた木造3階の松本金物店や別荘御用達の骨董屋が軒を連ねた「かほり」を随所に見ることが出来ます。つまり別府は大正ロマンと昭和モダニズムを下敷きとし、米軍のジャズや日本の大企業の保養所などの影響を受けた「何でもいらっしやい」の日本では珍しいオールカマーの町なのです。そういう意味で、APU(アジア太平洋大学)に世界中の学生が学んでいるのも別府のもつ力と言えましょう。」

○官兵衛の野望―石垣原の戦い

ちよつと趣向を変えて、別府では、古戦場めぐりも出来る。

別府は、豊臣秀吉の軍師・黒田官兵衛の最後の戦いが行われた石垣原古戦場でもある。NHK大河ドラマになった官兵衛は、中津城を居城として、密かな大望・天下取りを狙って、九州制圧を進めていた。息子の黒田長政は関ヶ原の戦いに出陣(東軍)、官兵衛はその留守を預かる身だったが、ためていた軍資金で兵をかき集め9千の軍勢に膨らませ、豊後に攻め入った。豊後高田城、富来城、安岐城と西軍についた国東半島の諸城を攻めた。大友宗麟の息子・大友義統(山口・大内氏預かりの身)が領地奪還を狙って西軍に付き、細川・杵築城(木付城)を攻めると知るや救援に向かった。

大友軍は別府・立石まで軍を引き、実相山の黒田・細川連合軍と対峙した。両軍は別府を流れ下る境川を挟んで対峙、現在の別府ICを下った南立石公園周辺が雌雄を決する激戦地(慶長5年9月13〜15日1600年)となった。今は閑静な住宅地になり「西の関ヶ原の戦い」と呼ばれる古戦場を偲ぶものはほとんどないが「古戦場橋」「古戦場跡」の石碑、最激戦地となった「七つ石公園」がある。

広場の巨石の上で大友方の武将・吉弘統幸が大槍を振り回した奮戦ぶりが伝えられている。戦いは黒田方の圧勝に終わった。だが、



石垣原古戦場跡といわれる七つ石公園の巨石

関ヶ原の戦いが長期化すると天下取りのチャンスありと踏んでいた官兵衛の目算は狂い、一日で決着が付き、野望は夢と消えた。
七つ石公園沿いには、「石垣原決戦」と書いた赤い旗が幾本も立てられ、戦いの説明板もあるが、隣にある温泉の湯治客と稲荷明神の参拝者が行き来する、のんびりした雰囲気、古戦場を思わせるものは何もない。



日出城址の鬼門櫓(復元)



滝廉太郎の像(日出城址)



二 国東半島海への道を行く

1 日出から半島をぐるり

国東半島海への道は、別府湾沿いの日出から始まり、ぐるっと半島を一周、豊後高田く宇佐神宮まで続く約100kmの風景街道だ。日出、杵築の城下町、ウミガメが産卵にやって来たり、カブトガニが息をする美しい海岸、六郷満山の仏たちから、現代アートの街や昔懐かしい昭和の町まで、魅力に満ちた海への道である。

(1) 日出散策

○滝廉太郎と日出城

日出城は別府湾を望む海崖の上に築かれ、海際にそびえる城であった。現在、城址は、日出小学校となり、北側の濠沿いに鬼門櫓と裏門櫓を残している。三重の天守閣を持ち、その隣に望海櫓があったが、いずれも明治初年取り壊された。別府湾から見上げる日出城は「海上の城」として偉容を誇ったに違いない。初代藩主は木下延俊、秀吉の妻ねの甥にあたる。関ヶ原の戦いで東軍に付き滅亡を免れた。

現在は「二の丸館」が観光案内所、土産店ともなっている。濠沿いには日出藩の歴代家老を務めた瀧家(現・日出幼稚園)があり、作曲家・瀧廉太郎の像(朝倉文夫制作)がある。父吉弘は大久保利通の秘書を務め、後に内務官僚となり、大分、竹田などに勤務。廉太郎も竹田中学を卒業、ドイツ留学中、病気で倒れ、大分市の両親のもとで療養したが23歳で夭折。「荒城の月」など名曲30曲を残した。直心正廉居士。「瀧累世之墓」と刻まれた墓石は大分市万寿寺にあったが、累代の墓がある、ここ日出の竜泉寺に移された。廉太郎が卒業した東京音楽学校(現東京芸大)の同窓生が建てた記念碑もある。

○雪舟庭と松屋寺

龍泉寺の隣に瀧家が仕えた藩主・木下家の菩提寺・松屋寺がある。関ヶ原の合戦で破れた豊臣家系の中で、木下延俊は日出に領地を与えられ、3万石の小大名ながら、加藤清正など他の豊臣恩顧の大名家が次々改易され、廃絶した中で、明治維新までの270年を生きた。秀吉の妻・北の政所(ねね)の甥に当たり、19代続いている。

木下家の菩提寺が松屋寺、歴代藩主とその親族の墓石52基。山門を入り「放生の池」

沿いを進むと本堂前に大きな「蘇鉄」が二株、日本一の大きさだという。住職に案内されて秘法殿に入ると、雪舟の、鋭い目を持つ鷹の絵があった。

涙でネズミの絵を足指で描いたと伝えられる画聖・雪舟（1420～1502）は室町時代、大内氏の庇護を受けて、中国・明に渡り修行、帰国して大分で自宅を天開図画楼と名付けて暮らした。その時の作品で、本堂裏の書院前には雪舟作庭と伝えられる「心の字池」を持つこじんまりした庭がある。

小さな築山には三尊仏に擬した石が建てられ、雪舟庭の原型を見ることが出来る。雪舟は中国留学して絵を学び、福岡（川崎町）山口市、島根県益田市など名庭を残している。



杵築を散策する



雪舟作と伝えられる松尾寺の庭

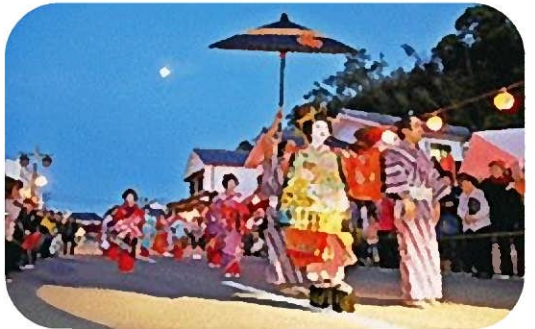


回天特攻訓練基地跡の公園

○海の特攻・人間魚雷「回天」

日出・大神漁港はかつての波「風待ち港」。参勤交代の為の御茶屋・襟江亭があり、港町として栄えた。その名残が、「千田普請」と称する商家が軒を並べた街。静かな別府湾沿いの「海辺の街」だが、太平洋戦争末期、人間魚雷「回天」の訓練基地（全国4か所）が密かに建設されていた。

回天は九三式魚雷を戦艦・大和を建造した呉海軍工廠で改造した、一人乗りの特殊潜航艇、超小型潜水艦のようなもので、魚雷を積んで敵艦に体当たりするための猛訓練がここで行われた。11棟の倉庫が造られ、2000人の若者が決死の覚悟を固めていた。豊後水道を北上してくる敵艦に神風特攻隊のように海中から体当たりしようという戦術だ。敗戦直前の昭和二〇年八月一二日、出撃命令。しかし、敵艦現れないまま終戦となった。戦艦大和同様、戦果をあげることなく、米軍に接収された。海辺の小公園には黒い「回天」の模型（長さ14・75m、重量8300kg）が展示され、失われた時と場所の、遠い記憶を回想させている。



竹築の伝統芸能を継承する「きつき衆楽観」(竹築市)



アカウミガメの生息地・黒崎海岸(国東市)



花の岬、長崎鼻(豊後高田市)

(2) 城下町・杵築散策

江戸時代の城下町にタイムトリップ。そんな感覚に捉えられるのが、日出の隣・杵築市だ。武家屋敷が北台と南台の丘陵部に残り、中央の凹部に町人の街、店が軒を連ねる。そこから広い石段・酢屋の坂を上ると杵築藩の重臣の屋敷が並ぶ北台武家屋敷。堂々たる茅葺の屋敷は家老を務めた大原邸。その隣は能見邸、かつては御用屋敷として使われた磯矢邸と並ぶ。長い土塀、白壁が続く。

南台武家屋敷へは、くの路曲線の「飴屋の坂」を上る。高い石垣、土塀が続く長屋門の構えの屋敷が並ぶ。藩医の佐野家屋敷は町屋で最も古い屋敷だ。藩校「学習館」の門が残り、北浜口番所も再現されている。

杵築城は東側の城山にある。木付頼直が築城(1394年)江戸時代になって松平氏が「杵築城」と改めた。現在の城は昭和45年造られた。きつき城下町資料館は南台にあり、城下町の模型や貴重な歴史文化資料が保存展示されている。

そのほか、杵築市では市民が八坂川河口や干潟を清掃、カブトガニの保護などに努め、また、住吉浜リゾートパークや奈多海岸、横岳自然公園、大分農業文化公園がある。

(3) ウミガメもやってくる海岸

大分空港を過ぎると、ウミガメが産卵にやってくるほど美しい白砂青松の黒津崎海岸



豊後高田市に入って、まず立ち寄るのは「花の岬・長崎鼻」。春は2000万本の菜の花が黄色いじゅうたんのように広がり、夏には100万本のひまわりが咲き誇る。さらに走って、水平線に沈む夕陽が海岸を赤く染める真玉海岸へ。干潮と沈む日没が重なる

(4) 昭和の街、豊後高田へ

をはじめ、海水浴場が続く。松林の中にある道の駅「くにさき」の夢咲茶屋では地元の新鮮な野菜が販売され、六郷満山の紹介など観光パンフレットが用意されている。国東市観光課があり、様々な情報を手に入れることが出来る。サイクリングタ―ミナルもあり、レンタサイクルで、潮風を感じながらのサイクリングロードも整備されている。ここから県道29号登り、両子寺、文殊仙寺、岩戸寺など六郷満山、山岳寺院や豊後の賢人・三浦梅園旧宅、資料館を訪ねる起点にもなっている。海辺の道国道213号を走って、道の駅「くにみ」へ。目の前に姫島が横たわる。近くの伊美港からフェリーが通う。クルマエビの名産地で、日本ジオパークにも指定されている島だ。

港近くに造り酒屋だった建物を改造した濤音寮がある。和田木乃美さんの創作屏風など展示され、「くにさき六郷舎」では家具や木工品を制作、国見郷愛記念館では江藤哲や河合誓徳らの作品が展示されているなどアートの拠点となっており、芸術家たちが移住して「ギャラリー通り」が出来ている。

山溪偉人館

杵築市に入ると、戦中から戦後にかけての動乱期に、日本再建と国際社会復帰に尽力した外交官・重光葵の実家(同市本庄)がある。野仏のある小道をたどると木造の建物。その中に和歌が掲げられている。

敵艦の中にたえずむひと時は心は澄みそ我は祈りぬ

重光は昭和20年、米艦ミズリー号艦上で降伏文書に署名した時の心境を詠っている。さらに、国道218号を進み、国東市へ。道路脇に山溪偉人館が目に入る。重光関連の資料館で、正面には胸像が立っている。昭和31年、国連総会での演説、「日本は東西の架け橋になる」が有名だ。



こうも

「昭和の街」街おこし奮戦記

豊後高田市は、国東半島の北の付け根のところにある。かつては、港町、商業の人口約5万人の町として栄えたが、急速に人口流出、現在約2万3千人と半分。約550mの商店街の人通りはまばらで、街の賑わいは消えた。「何とかしなくては」。しかし、新規の町おこしの事業資金はない。少ない事業資金でやれる町おこしはないものだろうか。

そこで考えたのは、昭和30年代の商店をそのまま残し「昭和の街」を再現して、賑わいを取り戻そう。キャッチフレーズは「忘れかけた、あの頃に、お帰りなさい」だ。まず、約300軒あった商店うち7軒を昭和レトロの店に衣替え。もともと古い店構えだから費用は少なくて済む。駄菓子屋、おもちや屋、金物屋、呉服屋など次々に甦らせていった。

平成13年には商店街、商工会議所、行政が資金を出し合い「豊後高田市観光まちづくり株式会社」を設立。シンボル施設として米蔵を改造「昭和ロマン蔵」をレストラン、博物館に変身させた。現在、全国からの観光客年間約30万人へ。出版社の「住みたい田舎」のベスト3に4年連続して選ばれている。

れ、平安・鎌倉時代からの荘園の集落や水田風景が、そのまま現在に引き継がれている。宇佐神宮は2万町歩を越える荘園を国東に持っていたが、田染の庄はその一つだ。神宮の子孫が田染氏を名乗り、この荘園を領してきた。

真木大堂から山道を入った豊後高田市小崎で、山里の斜面に水田が拓かれ、あぜ道は曲線を描いており、圃場整備がされた最近の方形の規格的な水田とは全く違う「手づくり」の風景だ。世界文化的景観にも指定されている。

山地と水田との境に、水神様の鳥居が見える。山の林から流れ出る水を、上の田から潤し、順次、下の水田に流してゆく。畔は水を受け止めるように半円を描き、その重なりが独特の景観を創り出している。

築百年を超える農家に民宿出来、古代わらで作る鶴や亀の細工体験、ホテルの里でもある（問い合わせ・豊後高田市商工観光課・電話0978223100）

2 世界農業遺産の里

と遠浅の干潟が赤く染まり、幻想的な風景となる。日本夕陽百選。豊後高田市内の「昭和の町」は昭和三十年代の、懐かしの商店街を再現、ボンネットバスも走り、昭和ロマン館などもある。

国東半島宇佐地区は、世界農業遺産の里でもある。国連・食糧農業機構（FAO）が指定した（平成25年5月）。国東半島には灌漑用ため池が多い。雨量が少なく、川が短く、岩山からいきなり海に流れ出す地形のため、農業を営むため、古くからため池を造り、水を効率的、システムの的に活用して稲作を営んできた。

(1) 田染の庄 千年の水田風景

農業遺産で代表的なのは「田染（たしぞ）の庄」（豊後高田市）だ。もともとは宇佐神宮の所有物で、11世紀後半に開発されたとみら



世界農業遺産・田染庄小崎の農村景観

世界農業遺産とは

次世代に継承すべき伝統的な農業「システム」を認定し、その保存と持続的な路用をはかるもので、世界で36カ所（2016年現在）。九州では「クヌギ林とため池が繋ぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」のほか「阿蘇草原の維持と持続的農業」（いずれも2013年認定）「高千穂郷・椎葉山地域の山間地農林業複合システム」（2015年認定）の3カ所で、全国認定地は8カ所。

(2) 連続する、ため池風景とくぬぎの里

世界農業遺産に指定された灌漑用ため池群——国東市旭日地区には21ものため池があり、それぞれが用水路で繋がって水田灌漑用水を供給するシステムを形成している。例えば同市網井地区では6つのため池が連結している。江戸時代から続く灌漑システムで、谷筋の最も高いところに高雄池、その下に古池があり、中流の美追池、荒神池、さらに下流に平尾池と迫池が並ぶ。各池は用水路で結ばれ、水を供給し合う仕組み。

水管理は当番制の「池守」が行う。ため池の水は下流から順次使われ、最上流の高雄池は水稲の後期育成用にとっておく。

『赤松の里』（国東市）。行人ダムから方の岩をへて赤松の里へ。峠からはクヌギ林が広がりその中に特産・椎茸栽培の原木クヌギを並べた椎茸栽培のホダ場が続く。原木はその場で供給できる仕組みだ。

狭間越えしたところから、ため池が重なるように続く。「狭間古池」「狭間新池」。このため池がクヌギ林を潤し、流れ出て水田の灌漑用水となる。山地と雨を活用した循環システムが現在も生きて機能していることが、世界農業遺産指定への高い評価となった。

両子山から放射線状に下る谷筋に、こうした複数連続したため池がシステムの運用され、少ない水を効率的に活用されてきた。こうした国東の世界農業遺産を巡る「ため池ウォーク」が開催されている。

(3) 弥生の村—安国寺集落遺跡（国史跡・国東町国東）

国東では、弥生時代の約1800年前から稲作が行われてきた。国東市を流れる田深川下流に集落が出来、弥生の人々が暮らした遺跡が発掘された。高床式建物や独特の弥生土器などが出土。現在は歴史体験学習習館となり、発掘体験や暮らし体験、古代の稲作づくりなどが体験できる公園となっている。（国東市歴史体験学習習館・電話0978-212677）

3 城下かかれい 青水晶の如く、香味秀逸

別府湾のおいしい魚と言えば、「城下かかれい」。別府湾奥の海岸沿いの日出城（陽谷城）下の海底から湧き出る清水に生きるカレイなので、この名がある。真水と海水が混ざった海で、生きているため、この「美味」に育ったのだという。城下海岸には高浜虚子の

「海中に真清水湧きて魚育つ」の句碑がある。

かつて、江戸時代、日出藩主はこの「城下かかれい」を天下の美味として将軍に献上したという。現在も高価で、庶民の口には縁遠いが、食通は初夏（5月〜7月）になると、日出行きでソワソワするという。

何しろ、漁獲量が少ない、外の市場には出さないから日出に行かねば、食することは出来ない。但し、5月中旬、城下かかれい祭り（城下かかれいミニ懷石賞味会）が行われ、ほぼ半額で食べられる。急がないと、前売り券はすぐ売り切れる（問い合わせは・日出町役場 0977-733-3158）

刺身で食べると、肉厚、身がプリプリして、なるほど白身魚の王様と言われるほどのことはある。「肉質軟らかく、純白」「刺身にすれば光沢があって、青水晶の如く香味秀逸」（木下謙次郎「続・美味求真」と絶賛されている）。

このマコカレイ、大きくなっても、せいぜい35cmほどで、口が小さく、厚い胴体、海底の砂地で育つ。表は黒っぽく、裏は真っ白、他の海のマコカレイとは少し形が違ふ。一般にカレイはヒラメの下をゆく魚だが、別府湾のは別格なのだ。

三 神と仏の里国東半島めぐり

国東半島は東九州・大分県北部、瀬戸内海と伊予海峡に突き出した円形の半島で、両子山（標高720・6m）を中心にした火山群の噴火によって出来た特殊な地形を持っている。山頂から刻まれた谷と丘陵が放射線状に広がり、山頂付近は奇岩が並び、そこに建てられた山岳寺院と共に、特別な景観を創り出している。この半島を舞台に神と仏が融合した「神仏習合」が生まれ、宇佐神宮を中心とした八幡信仰と天台宗の仏教・山岳寺院が「六郷満山」呼ばれる山岳信仰が、現在も生きている。ケベス祭り、修正鬼会など珍しい祭り、自然の力を体と心に取り込もうとする行者の「峰入り」の荒行も続いている。

こうした秘境の雰囲気と類を見ない山岳習合の修行の地・国東半島だが、現在では「峰入り」に一般参加を認められ、奇岩と山岳寺院を巡り歩



ケベス祭り

くロングトレッキングが開発され、一般の人々も楽しめる「観光ルート」になっている。なぜ国東半島にこうした山岳信仰が生まれたか、歴史は別府大学・飯沼賢司教授の話（別稿・16頁）に詳しい。その上で、国東半島、東西の山岳寺院を巡り歩こう。

1 国東半島の西側

—宇佐神宮と富貴寺、熊野磨崖仏など—

国東半島の山岳部に足を踏み入れるには、まず宇佐神宮を訪ねるとよい。全国4万に及ぶ八幡宮の総本山であり、皇室の参拝も多い。広大な地域の中心に、真っ赤な社殿がある。国道10号沿いの大分県宇佐市、巨大な鳥居をくぐって参道に入る。放浪の俳人・種田山頭火の石碑がある。美濃笠をかぶり、丸いメガネをかけた山頭火の顔と句碑。砂利道を足音を立てながら、鬱蒼とした古木群の中を本殿に向かう。

真っ赤な社殿が3棟繋がる特殊な本殿で、国指定の重要文化財。通常、神社では二礼二拍一礼が通例だが、ここでは二礼四拍と数が多い。宇佐神宮と国東山岳信仰を知るには、風土記の丘・大分県立博物館を訪ねるのが一番だ。風土記の丘は、4世紀に築造された前方後円墳・赤塚古墳を中心とした古墳群が保存されその中に県立歴史博物館がある。

【宇佐風土記の丘】—富貴寺大堂(阿弥陀堂)の再現—大分県立博物館

端正な美しさを持つ富貴寺大堂の前に立つと、自然と心があらわれる思いがする。大堂の中は見ることは出来ないが、大分県立歴史博物館(宇佐市・宇佐風土記の丘)には、華やかな色彩の極楽浄土の世界が再現されている。中央に阿弥陀如来像が金色に輝き、天女が舞う。柱から天井まで、びっしりと仏様の姿が描き込まれている。平安時代後期、平等院など都を風靡した阿弥陀信仰が、この国東半島まで及んでいたことを物語っている。臼杵の磨崖仏が彫られた時期とほぼ同じで、平安仏教の大きな広がりを見せている。



宇佐神宮の本殿



大分県立歴史資料館と阿弥陀如来堂の再現



宇佐神宮の大鳥居



山頭火の碑

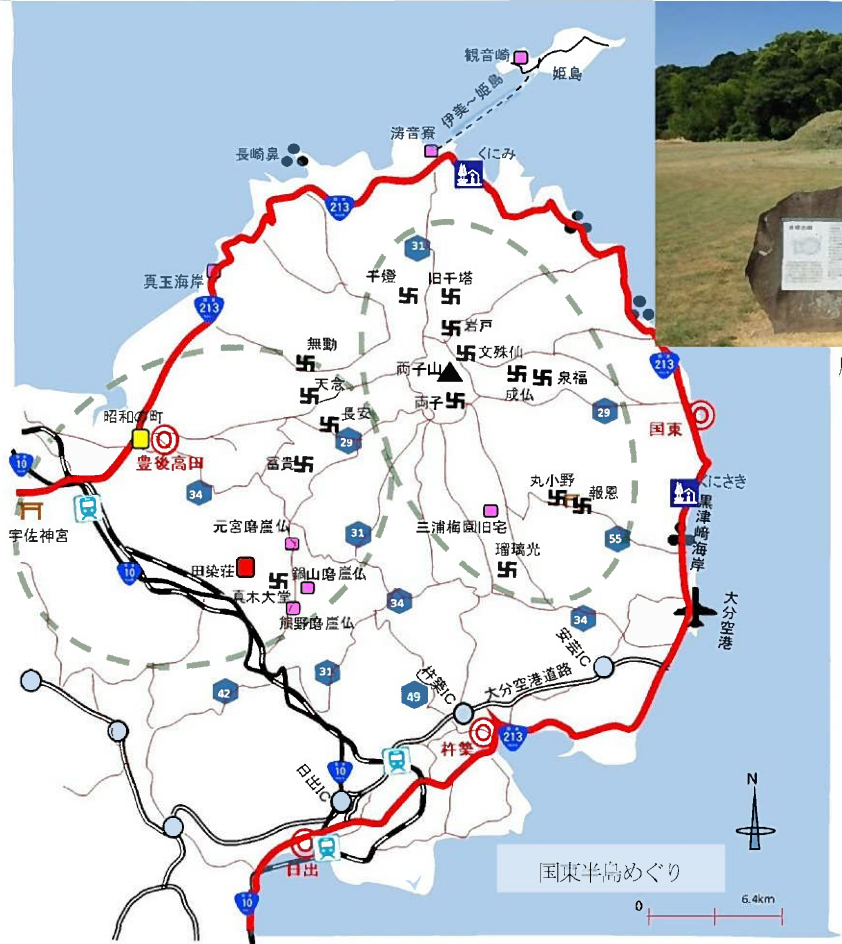
宇佐神宮の参道沿いに、俳人・種田山頭火(1882〜1940、熊本で出家、托鉢の旅に出る)の句碑がある。山頭火は大分宮崎を廻り「分け入っても分け入っても青い山」など自由律の俳句を約8万句残している。句集に「鉢の子」「草木塔」「山行水行」など。墓は防府市と熊本市(八骨墓・安国禪寺)にある。

宇佐風土記の丘は約19・2haの史跡公園。県立歴史博物館をはじめ国指定の史跡川部・高森古墳群があり、九州最古級の赤塚古墳など6基の前方後円墳が保存され、散策路が用意されている。博物館は国東半島の歴史を視覚的にも分かりやすく、展示解説している。そのハイライトは富貴寺の阿弥陀堂の再現だ。黄金の阿弥陀如来像を中心に、二体の菩薩像、極楽世界をさらびやかに想像、創り出している。再現と言っても、阿弥陀堂(富貴寺大堂)は、富貴寺(豊後高田市路、七二三年創建)に存在する。京都・宇治の平等院・鳳凰堂、東北、岩手、藤原三代の天尊寺・金色堂の阿弥陀堂と並ぶ国宝だ。宇佐神宮―豊後高田から県道34号で山中に入る。阿弥陀堂はその端正な姿を今も残り、人々を感動させる。カヤの白木づくり、正面三間、側面四間。世が乱れ、末法思想が広がった藤原末期、阿弥陀様の導きによって極楽浄土への願いを込めて造られた。

「なぜ、これほどの阿弥陀堂がこの地に建てられたのか、はっきりとは分からない」と富貴寺の住職河野英信さんも首をかしげる。「しかし、宇佐神宮の力によって、この寺と阿弥陀堂が建設され、今日までその姿をとどめている」のだという。宇佐神宮の大宮司が祈願所としてひらいたのが、この富貴寺樹林の中に静かにたたずむ阿弥陀堂、その内部は博物館で再現されているような、きらびやかさはないが、歳月を経て、静寂を持つ美しい空間を創り出していた。宇佐神社の根本荘園・田染荘は中世の荘園の詩型をそのまま現代に伝えるものとして、世界農業遺産にもなっている。



風土記の赤塚古墳



富貴寺を下ると、真木大堂（伝乗寺・同市真中）がある。六郷満山65カ所の寺院の内本山本寺として36坊を有した「伝承寺」で、約700年前の火災で焼失、今は、寺はない。しかし、被災を免れた9体が守られ、今日に伝えられている。収蔵庫には巨大な仏像が阿弥陀如来を中心に3体が保存展示されている。四天王を従え、唇を引き結んだ阿弥陀如来坐像、水牛に跨る六面六臂、憤怒の大威徳明王、童子を従えた不動明王な



熊野密崖仏の大日如来像



富貴寺・阿弥陀堂



熊野密崖仏の不動明王



真木大堂の阿弥陀仏

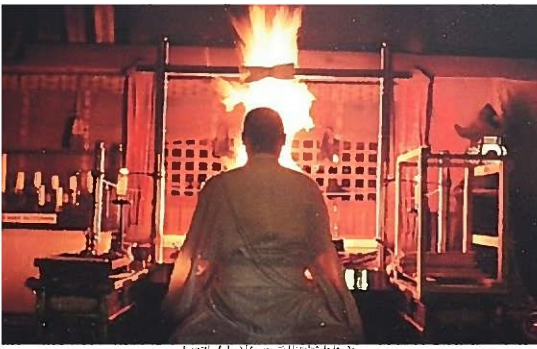
どいずれも国宝で、12世紀末の製作、九州に残る密教彫刻の大作だ。周辺は国東半島に多い宝塔などの石塔、石仏が集められ、その多様性に驚かされる。

そして、熊野磨崖仏（胎藏寺、同市平野、伝1228年制作、国指定重要文化財）。鬼が築いたと伝えられる細い自然石の石段（約300m）を、息を切らして登ると、岩壁に8mを越える巨大な仏と仁王の姿が彫り込まれている。参拝に来た善男善女の願いを聞くかのような、穏やかで高貴な表情の大日如来様。その隣には魔を追いやる不動明王。この不動明様は、なぜか、怒りの形相ではなく、微笑んでいるように見え、表情にやさしさがあふれている。いずれも国重要文化財。一〇年に一度の「峰入り」はこの大護摩から始まる。遠く長崎から一泊泊まりで来たという中年夫婦は「富貴寺といい、この磨崖仏といい、心が休まります。しばらくここで拝ませてください」と手を合わせ、見上げて続けた。

2 国東半島の東側

―文殊仙寺、岩戸寺、旧千燈寺跡など―

国東半島の東側は、奇岩がそそり立つ山に寺院が建設され、祈禱と荒行の舞台となる。宇佐神宮、富貴寺阿弥陀堂など静かなたたずまいの半島西側とは対照的に、行者の「峰入り」修行にふさわしい険しい山岳風景に一変する。行者たちが自然のパワーを心身に



文殊仙堂の護摩焚き



両子寺の山門と講堂の阿彌陀仏座像

取り込もうとして山野で修行を重ねたルートは、登山愛好家や一般人向きのトレッキングコースに「開発」され、国東半島の新たな魅力となっている。

山岳寺院は両子山（標高721m）を頂点に、半島の東側山腹に張り付くように両子寺、文殊仙寺など古刹群が点々と造られている。どの寺も、急坂の石段を登り、仁王像を迎えられ、たどり着いた本殿では、朗々とした読経の声と護摩の炎が上がる。天台宗の最澄、真言宗の空海が中国からもたらした密教的な祈願所の雰囲気包まれる。

（1）文殊仙寺―護摩祈禱の寺

六郷満山の神社で最も古いお寺。「三人寄れば文殊の知恵」と言われるが、日本三大文殊の一つで御本尊は文殊師利菩薩（青銅、12年に一度、開扉、千年以上前の渡来と伝えられる。獅子に乗った菩薩様で、学業はじめ生き抜く知恵を授かる。約1300年前の古刹。国東半島のほぼ中央にある文殊山（標高614m）の中腹にあり、駐車場からすぐ300段もある石段を登って行く。

最初に、筋骨たくましい仁王石像の恐ろしい顔に迎えられ、さらに登ると紅白の幕が張られた本殿文殊堂。日本最大の大釜があり、護摩祈禱が行われる（毎月25日護摩供）。奉納された護摩木が真っ赤な炎を上げる中、祈願の経文の音が山中に響く。秋季大祭では1か月の行を経て、さらに断食、不眠した行者による八千枚大護摩供が執り行われる。

梵鐘、国東塔、仁王石像共に重要文化財に指定されている。鐘楼門わきに樹齢千年ケヤキ、参道には同四百年杉の原木が並び、本堂からは遠く瀬戸内海まで見渡せる。

江戸時代の国東の学者、三浦梅園はここ文殊山の奇岩を含めた自然とお寺の景観を「四境選んでその素晴らしさ讃えている。また文殊仙寺周辺のは「日本の自然100選」にも選ばれている。また、文殊仙寺一帯を国指定の「名勝」にしようとする運動も行われている。

（2）親しき総持院・両子寺

熊野磨崖仏は、修行僧が10年に1回、行う「峯入り」のスタート地点で、約135kmの山岳修行を5泊6日に渡って行い、ゴールは両子寺（天台宗別格本山）だ。六郷満山の総持院として全山を統括してきたこの寺は修行の根本道場である。赤い欄干の太鼓橋（鬼橋）を渡って、仁王門に立つ。この石造仁王は六郷満山の数ある寺院の仁王像の中で、最も、最大の大きさ。参道は石段で、真っすぐ護摩堂（木堂）、大講堂に向かって登る。護摩堂には

本尊・大聖不動明王（木造物、114cm）、講堂には阿弥陀仏（県指定有形文化財）。新緑、紅葉の時期には、大勢の参拝客で賑わう。

両子の名の通り、子授けの願いをかなえてくれるという信仰があり、夫婦で参拝（午の目）する姿が見られる。子宝にあやかりたい祈願者は子供を産んだ33人の女性からはぎれをもらい、自分のはぎれを加え、34枚で祈願袋を縫い、お米を入れてお供えし、



国東半島のロングトレイルの諸コース



旧千燈寺への道での仏達



旧千燈寺・五辻不動尊

祈願を受けるのだといふ。決して大伽藍はな、藍でい、ど、か、安らぎの雰、気を持、お寺だ。

嬉しきとき悲しきとき我が対（おと）う両子嶺はかり親しきはなし
山川の音は父母の愛に似て変わることなしたゆるることなし
などの歌が石塔に刻まれていた。

(3) 石の文化と奇祭―修正鬼会（しゅうじょうおにえ）

国東半島には六郷山と呼ばれる千年の歴史を持つ寺院集団が、多彩な「石の文化」と修正鬼会（しゅうじょうおにえ）の祭りなど民俗文化を残している。

修正鬼会には各六郷山寺院で行われてきたが、現在は岩戸寺、天念寺、成仏情仏寺の3カ所で続けられている。岩戸寺は文殊仙寺の近くにあり、お寺と鳥居が並んであり、神を仏とし、仏を神とする、いかにも神仏習合を思わせるお寺だ。境内には、国東独特の宝塔・国東塔（最古・重要文化財）がある。

修正鬼会には松明を振り回しながら、本堂を走り回った鬼が、集落に飛び出して家々を回り、加持して無病息災を祈ってくれる。「医師から見放された瀕死の子供が鬼様の加護で危篤から脱した」と伝えられている。仏や神が鬼に変身、参拝者の片や背中を叩き、幸せを招く、どこか土俗的な雰囲気がある奇祭だ。

鬼会面は修正鬼会が行われる寺、郷ごとに特色があり、面は小さきさま、鬼の角も2本だったり1本だったりする。総じて、鬼の恐ろしさより、穏やかな表情の面が多いのが特徴だ。

(4) 岩戸寺

六郷満山の開祖・仁聞菩薩によって開かれたと伝えられる山門には仁王像が立ち鳥居をくぐって参道を登る。鎌倉時代建立の「国東塔」（国指定重要文化財）が見られる。七段に積みかさねられた宝塔で、国東半島特有ものだ。

(5) 峯道ロングトレイル

国東半島の六郷満山に造られたロングトレイルは平均約10kmウォーキングコースで国東地区60コースと豊後高田地区4コースが設定されている。その一部、千燈寺を中心に旧千燈寺と五辻不動尊と大不動窟へのコースを歩いた。出発地は県道31号沿いの千燈寺。「天台宗 六郷満山 千燈寺」と彫り込んだ大きな石柱横の山門をくぐると宝塔が立ち、本堂には阿弥陀如来坐像。

寺の東側山中に旧千燈寺跡があり、さらに進むと五辻不動に登りつく。



姫島、瀬戸内海が眺望できる五辻不動尊



大不動から見る奇岩群

(6) 旧千燈寺跡—廃寺の静けさ

その昔、「西の高野山」と呼ばれ、十六の末寺を擁するほどの一大勢力を誇り、多くの参拝者があつた旧千燈寺跡は、県道31号沿い山の中に埋もれていた。車1台がやっと通れる山道を登り、山中をさまよって、ようやく参道を見つけた。石畳を登り、力感あふれる仁王に迎えられる。この仁王像は大石に浮彫レリーフ状のもので、静かな林の中に立っている。仁王像がなければ、此処がかつて隆盛を誇った千燈寺跡とは分らない。わずかに本堂跡と思われるところに、4段の石段が苔むし、木もれ陽光の中に残っているだけだ。

六郷満山文化を拓いた仁聞菩薩が最初に千燈寺を建立、最大勢力を誇り、大伽藍を持つていた旧千燈寺だが、本堂跡は、廃寺になったというより、銀杏の大木のほかは、伽藍の跡かたもなく自然に帰っていた。戦国時代、焼打ちに合ったとも伝えられる。仁聞はここで人寂したとされる。

(7) 五辻不動への道

旧千燈寺から、仁聞が修行したと伝えられる五辻不動へ登る。修行中、竜王が千の灯

りをともしたと伝えられるところから、千燈寺の名がある。

茶屋下の登り口から階段を登ると、五辻不動尊の屋根が見える。山頂は大きな岩山で、航空写真では、巨大な山塊に張り付くように五辻不動尊の建物が見える。岩を削って造った階段を登ると石灯籠があり、不動尊に参拝できる。

振り返ると、眼下に青い瀬戸内海。正面に姫島が横たわり、大きな船がゆつくり横切っていく。遠くには瀬戸内の島々。階段を降りるとき、石灯籠の先に、茶色の人物像が建っているのに気が付いた。国東半島芸術祭でイギリスの彫刻家・アントニー・ゴームリー氏が立てた作品で高さ約2m程の鉄製、男の裸体像で、遠く海を見ている。

(8) 大不動岩屋からの絶景の奇岩群

再び千燈寺に戻って、県道をしばらく行くと、旧千燈寺跡とは道を隔てた大不動岩屋へ向かう。登り口には尻付岩屋があり、そこから約1km、林道を登る。林道を右折して細い道を這うように登ると、そこに大不動岩屋が大きな口を開けている。洞穴からの眺望は息をのむほど素晴らしい。岩釜が高く空に突き上げられるように幾つもそびえ、眺めていると、雲が流れるので、奇岩群がこちらに動いてくる動画を見ているような錯覚に陥った。ここから約400mで阿弥陀越えで大藤岩屋の御堂、さらに西方寺の里へ向かう。

◇ ◇



諸コースのトレッキング道



路傍の国東塔

紹介した旧千燈寺跡から西芳寺の里のコースは、国東半島に設定された峯道ロングトレイル10コースの内、国東市側の「T-1」コースの一部。国東市側（東側）にはT-1からT-6までの6コース、豊後高田市側（西側）にはT-1からT-4までの4コース、この10コースは熊野磨崖仏から両子寺まで半島山岳部をほぼ1周する。

修行僧が行う「峯入り」は10年毎だが、六郷満山の開山1300年に当たる平成30年（2018）に行われる。峯入りコース（135km）は、その後、一般開放される。峯道トレッキングコースはほぼ「峯入り」コースに沿って設定、道標、階段などが整備されている。

六郷満山

国東半島は両子山を中心に、四方に深い谷が刻まれ、その中の六つの谷間に生まれた集落（六郷）とかつて天台宗の六五を救えた山岳寺院があり、これを満山と呼んだ。始まりは奈良時代後期とされるが、孤立した山岳半島であることもあって、神仏習合の特別な山岳文化を形成した。

六郷満山を拓いた伝聞菩薩の教えを実践して山中、峰々を歩き続ける修行。伝聞菩薩は宇佐神宮の八幡神の化身とされ、峰入りは宇佐神宮への参詣から始まり、熊野磨崖仏前で大護摩、岩飛びなど。山中の行場を巡拝して回り、寺や洞窟で泊まりながら歩く。富貴寺、文殊仙寺、千燈寺、岩戸寺などを巡り、両子寺での「結願護摩」で締めくくる。平成二二年三月、十年ぶりに六日間の峰入りが行われた。人間を構成する眼、耳、鼻、舌など「六根清浄」を唱えながら難業に挑戦する。

不動明王
国東半島のお寺を巡ると、必ず巨石に掘られた不動明王に迎えられる。宝剣を片手に恐ろしい表情で立っている人々から「お不動さま」親近感を持って呼ばれる。大日如来の化身とされ、その憤怒の顔は、人々の悩み、苦しみをその宝剣とパワフルな肉体とで、切り捨て、押さえ込んで救済する守護神なのだという。

（参考1） 飯沼賢司・別府大学教授の話

「六郷満山の歴史と景観」

「国東半島・六郷満山は養老2年（718）に成立（伝・仁聞菩薩による開山）したとされるが、実際に、寺院が建設されるのは11世紀初頭にかけてで、比叡山・天台宗の僧侶がこの地で縁縁造立運動を始めたこと」に始まる。寺院の奥の院に造られた縁縁を頂点に、その下に

本堂、講堂、坊などが営まれ、大伽藍を形成した。それぞれの寺の境内は一つの村に匹敵する領域を持ち、「六郷」は、双子山を頂点に6つの谷筋に形成されたもので、寺は奇岩、霊窟を持つ山中に建設され、独特の景観を創り出している。

我々、別府大学の研究者は、この岩峯を含む自然と一体となった素晴らしい景観を境内に持つ寺社を国「名勝」指定を受け、文殊仙寺、岩戸寺、両子寺、旧千燈寺など8か所の寺院を対象に、国東の自然、歴史などを調査研究をしている。両子寺近くで生まれた江戸時代の学者・三浦梅園は六郷満山の歴史景観の素晴らしさを世に伝えようと努力し、さすらいの俳人・種田山頭火は「このあたりは小耶馬溪とでも言いたい山間であります」と讃えている。

単に景観だけでなく、その自然、歴史、風致景観、芸術的あるいは学術的価値は高く、我が国の国土美として欠かすことのできない「名勝」指定に十分値すると考えている。また、修正鬼会、峰入り行など伝統行事も生きており、民俗文化としても大きな価値がある。最近では僧侶の修行法である峰入りに一般参加を認め、また、奇岩や里山、寺社を組み合わせたトレッキングやウォーキングコースの開発（国東ロングトレイル・約137km）も進んでいる。

なぜ、国東半島に神仏習合の文化圏が成立したのだろうか。国東を含む豊前（福岡・大分）は大和朝廷の九州制覇の最前線であり、それは赤塚古墳（宇佐市・風土記の丘）などから、畿内の同じ建造された三角縁神獣鏡が出土するなど、大和朝廷との深い関係物語ついていると言えよう。

国東半島の「国東」は古代、「国埼」あるいは「国先」と表記され、日本の「西方境界の地」（豊後風土記）の地であることを示し、奇岩や洞窟はいかにも辺境をシンボライズする景観であった。実際には、大和朝廷の領域でその外側は「隼人族」の地であった。隼人族との争いはしばしば起こり、宇佐神宮は大和朝廷側の当時の国境最前線の守り神であり、宇佐八幡宮は軍事の神様としてあがめられた。



隼人族を制圧した後、大隅国が成立したが、8世紀初め、隼人の反乱(720年)は治まらず、大宰府の相伴旅人が征隼人大將軍となり鎮圧にあたった。宇佐八幡の神興と共に遠征し、宇佐佐教徒軍も参戦している。隼人族をはじめ九州には大和朝廷に従わないクニグニが存在し、神(大和朝廷)の戦いは命を懸けた武力衝突であり、宇佐八幡はその最前線の守護神だった。戦いによって多くの人々が殺戮され、あるいは傷つき、心に深い怨念を残す。それを癒すものとして仏教が積極的に導入された。国東半島の神仏習合はそうした歴史的背景の中から生まれ、12世紀にはほぼ完成したと考えられる。戦いに当たって、八幡大菩薩に勝利を祈願し、旗を掲げるのはそのためであり、例えば、武家政治を確立した鎌倉幕府は鶴岡八幡宮を祭って守護神とした。

日本の神と仏を結ぶ神として宇佐八幡神は存在する。それは大仏造立の最大の協力者として東大寺に招かれ、大仏(盧舎那仏)礼拝したことによって天下に認知され、日本全国に4万社以上と言われる八幡宮の頂点に立っている。」

(参考2)

国東を愛した三浦梅園

国東に生まれ、この地を愛し、生き豊後聖人と呼ばれた三浦梅園(1723~1789)を知るには三浦梅園資料館(国東市安岐富清)を訪ねると良い。旧家も隣接して復元されている。彼の学問は、哲学、天文学、医学、生物学、政治経済学にまでおよび、「花を知らんと欲すれば、速やかに花畑に走れ」の言葉通り現象面で疑問に思ったことがあれば、現場に行き観察し、その原理を探求する科学的な精神に貫かれている。資料館には旧宅に保存されていた国指定重要文化財の遺稿が展示され、その生涯と学問について解説したビデオも上映されている。梅園は天地自然を学問の師としたように、国東の自然風土をこよなく愛した。

また「大同に得て、これを各好尚の責めず」と説き、お互いの多様性を認め合い、共存することの必要を論じている。これは宗教、イデオロギー、民族、体制の違いで対立紛争の絶えない現代への警句でもあるようだ。



三浦梅園の旧宅

(参考3) 写真家・藤田洋三さんの提案

「世間遺産プロジェクト」世間遺産発見に出かけよう

風景街道「別府湾岸・国東半島海辺の道」では、世間遺産プロジェクトを始めている。世界遺産ではなく「世間」遺産を国東半島や別府、大分の風景街道などを歩いて発見、カメラに収め、パネル展を開く。路傍に残る暮らしの風景の中に珍しいもの、美しいもの、変なものなど「光り」を自分なりに見つけ、地域に根差した生活の知恵や文化を再発掘しようとするウオーキングだ。風景街道の新しい楽しみ方の提案ともなっている。講師は写真家・藤田洋三さん。藤田さんは土蔵や民家の壁づくりで左官が鏝で大黒や恵比須からツル、カメなど目出度い鏝絵の写真集を出版(鏝絵放浪記)などしている。「無名人々々の様々な手の記憶、彼らの心の豊かさ、生活に根差す美意識」など世間遺産と名付けた暮らしの営みを表現する小屋や壁、田んぼの藁塚など様々な暮らしにつながるものを写真に撮影、その意味と意義を探ってきた。

そうした身近な世間遺産の発見は「足元に光っているものを見つけ、良く知る事」であり、「その今を見ないと、未来は見えない」と藤田さんは言う。美術館では、選ばれた「美」を鑑賞する。世界遺産も専門家が認めた文化、歴史遺産を見て回る。しかし、世間遺産では自分の目で自分がいいと思う価値判断で身近に「光っているものを見つけ」(藤田氏)のだ。



藤田さんの近著に「世間遺産放浪記」がある。世間遺産を求め歩き、「カカシの劇場」「鶴亀ハウス」「屋根漆喰」「稲ワラ乾し」「瓦窯の登り屋根」「野良小屋」などが満載の写真集。いずれも、職人の手の仕事であり、暮らしや生業に役立つよう工夫を凝らしたもので、ほっておけば消えて行く絶滅危惧種だ。

普通は見向きもされない身近なものや風景に感動したり感心したり、「用と美」を兼ねた、その裏に、手の技を発見するのだという。「びっくりしたり、感心したりして楽しんでほしい」と藤田さん。さあ「発見!世間遺産」に出かけよう。

「世間遺産」の活動を実施し、

海への道の見え方がどう変わったか

道守大分会議事務局 木ノ下結理

コラム

「風景」といえども、どの部分をどの方向で見るかで印象は異なる。写真を撮ることと似ているかもしれない。

切り取り方次第で「風景」の見え方は変わるのだ。

世間遺産は、いわゆる「王道の観光地」ではなく、カメラのレンズを身近な暮らしに向ける。そして、何気なく生活に溶け込み、決して自己主張しない健気な風景を自分で見つける。

目が肥えてくるとカメラの先には、先祖たちが知恵を絞り、土地を守り、環境に適した暮らしが引き継がれていることに気づかされる。日ごろは見逃しがちなモノが、この世間遺産というツールによって再発見されるのだ。

世間遺産ツアー参加者たちの顔色は、大抵、始まりと終わりで変わる。その場所に存在する被写体の本当の意味や価値を感じ、もの思いに耽る。

世間遺産では、身近にある心の中に留めておきたい大切な「風景」の見え方を教えてもらった。ユネスコが決める【世界遺産】も素晴らしいが、私たち自身が探し出して決めることができる

【世間遺産】も素晴らしい。





✈️ 空港

大分空港 **C-5**

🌊 港湾

佐賀関港 **E-6**

佐賀関漁港 **E-6**

別府観光港 **D-3**

大分港 **E-4**

伊美港 **A-4**

🚉 道の駅

道の駅佐賀関 **E-6**

道の駅くにさき **B-5**

道の駅くにみ **A-4**

🌿 レジャースポット

水族館うみたまご **E-4**

高崎山自然動物園 **E-4**

湯の花採取場 **D-3**

別府ラクテンチ **D-3**

別府7地獄 **D-3**

ハーモニーランド **C-4**

大分スポーツ公園 **E-4**

田ノ浦ビーチ **E-4**

♨️ 温泉

亀川温泉 **D-3**

紫石温泉 **D-3**

明礬温泉 **D-3**

鉄輪温泉 **D-3**

堀田温泉 **D-3**

観海寺温泉 **D-3**

竹瓦温泉 **D-3**

浜脇温泉 **E-3**

🏯 港湾

大分県立美術館 **E-4**

大分市美術館 **E-4**

竹細工伝統産業館 **D-3**

きつき城下町資料館 **C-4**

大分県立歴史博物館 **B-2**

📍 施設

昭和の町 **B-3**

大友宗麟像 **E-4**

国際コンベンションセンター **D-3**

重光家 **C-4**

酢屋の坂 **C-4**

北台武家屋敷 **C-4**

勘定場の坂 **C-4**

三浦梅園旧宅 **B-4**

湊音寮 **A-4**

🌿 世界農業遺産

田染荘小崎 **C-3**

🏯 景観地

関崎灯台 **E-6**

黒ヶ浜 **E-6**

長崎鼻 **A-3**

十文字展望台 **D-3**

湯けむり展望台 **D-3**

住吉浜リゾートパーク **C-5**

奈多海岸 **C-5**

黒津崎海岸 **B-5**

真玉海岸 **B-3**

観音崎 **A-4**

🏰 史跡・古墳等

杵築城址 **C-4**

府内城址 **E-4**

石垣原古戦場跡 **D-3**

日出城址 **D-3**

築山古墳 **E-6**

亀塚古墳 **E-5**

帆足萬里之墓 **D-3**

鬼の岩屋古墳 **D-3**

早水台遺跡 **D-4**

回天特攻訓練基地跡 **D-4**

熊野磨崖仏 **C-3**

鍋山磨崖仏 **C-3**

元宮磨崖仏 **C-3**

安国寺集落遺跡 **B-5**

赤塚古墳 **B-2**

🏯 神社

宇佐神宮 **B-2**

八幡朝見神社 **E-3**

🏯 寺院

富貴寺 **B-3**

長安寺 **B-4**

松尾寺 **D-3**

真木大堂 **C-3**

文殊仙寺 **B-4**

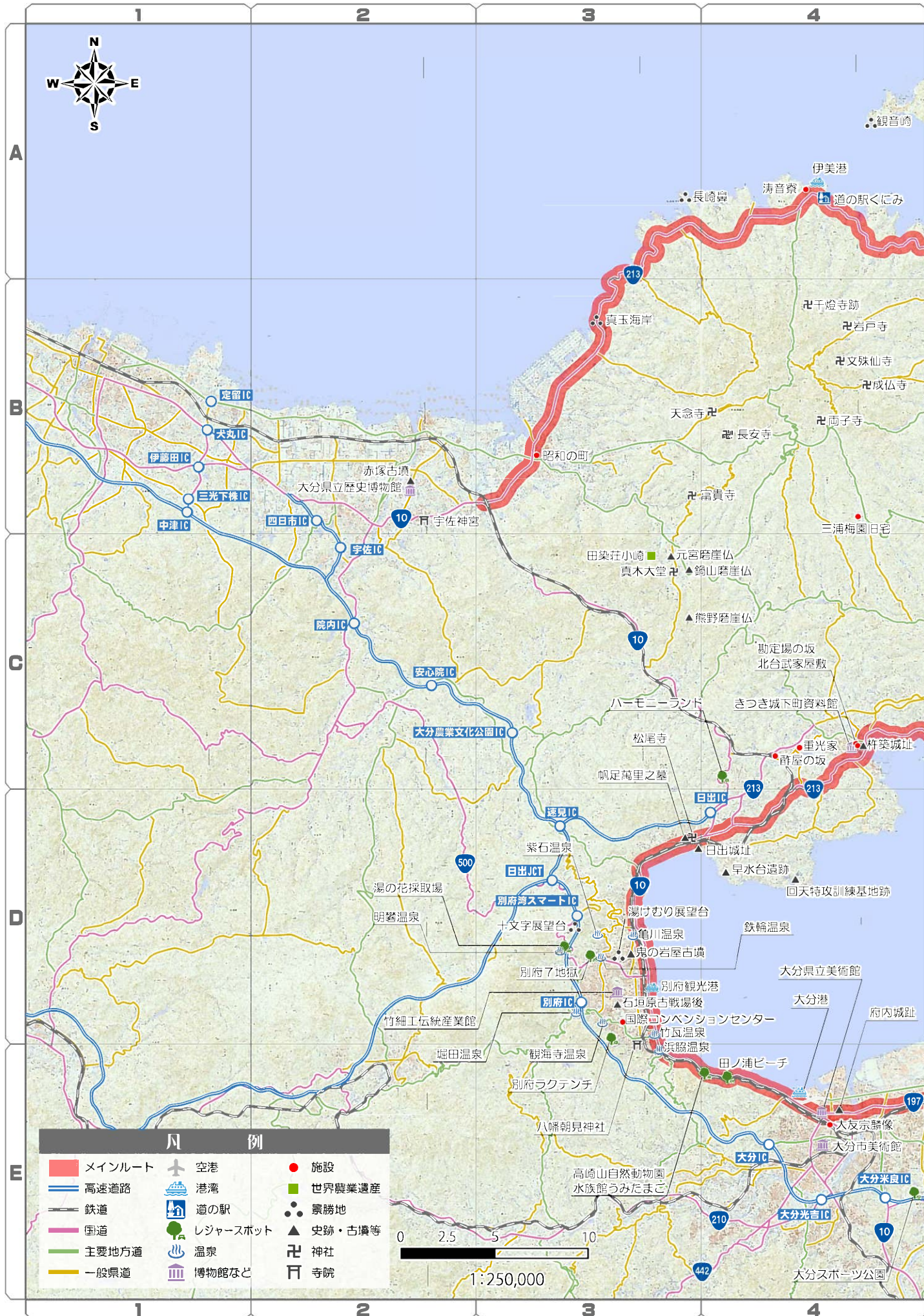
両子寺 **B-4**

岩戸寺 **B-4**

天念寺 **B-4**

成仏寺 **B-4**

千燈寺跡 **B-4**



凡例	
— メインルート	空港
— 高速道路	港湾
— 鉄道	道の駅
— 国道	レジャースポット
— 主要地方道	温泉
— 一般県道	博物館など
● 施設	景勝地
■ 世界農業遺産	史跡・古墳等
景勝地	神社
史跡・古墳等	寺院



観音崎

伊美港

道の駅くにみ

清音寮

長崎崎

213

真玉海岸

昭和の町

宇佐IC

宇佐神社

大分県立歴史博物館

赤塚古墳

四日市IC

院内IC

三光下株IC

伊藤田IC

定留IC

千燈寺跡

岩戸寺

文殊仙寺

成仏寺

函子寺

長安寺

天念寺

富貴寺

三浦梅園旧宅

田染荘小崎

真木大堂

元宮磨崖仏

熊野磨崖仏

助定場の坂

北台武家屋敷

ハーモニーランド

松尾寺

帆足萬里之墓

日出IC

日出城址

早水台遺跡

回天特攻訓練基地跡

湯けむり展望台

池亀川温泉

鬼の岩屋古墳

別府7地獄

別府IC

石垣原古戦場後

国際コンベンションセンター

竹瓦温泉

浜脇温泉

田ノ浦ビーチ

八幡朝見神社

高崎山自然動物園

水族館うみたまご

重光家

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

群屋の坂

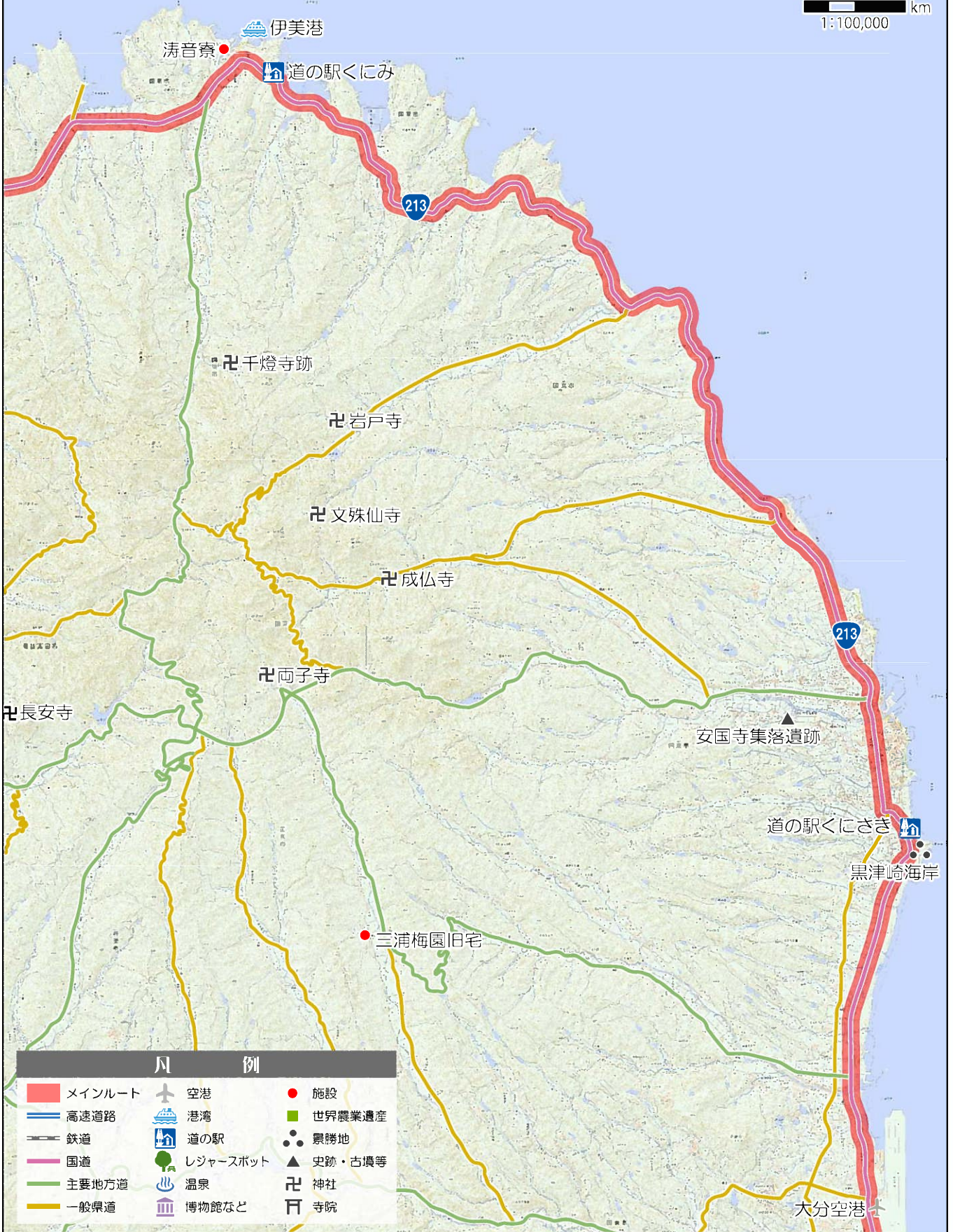
群屋の坂

国東拡大

● 観音崎



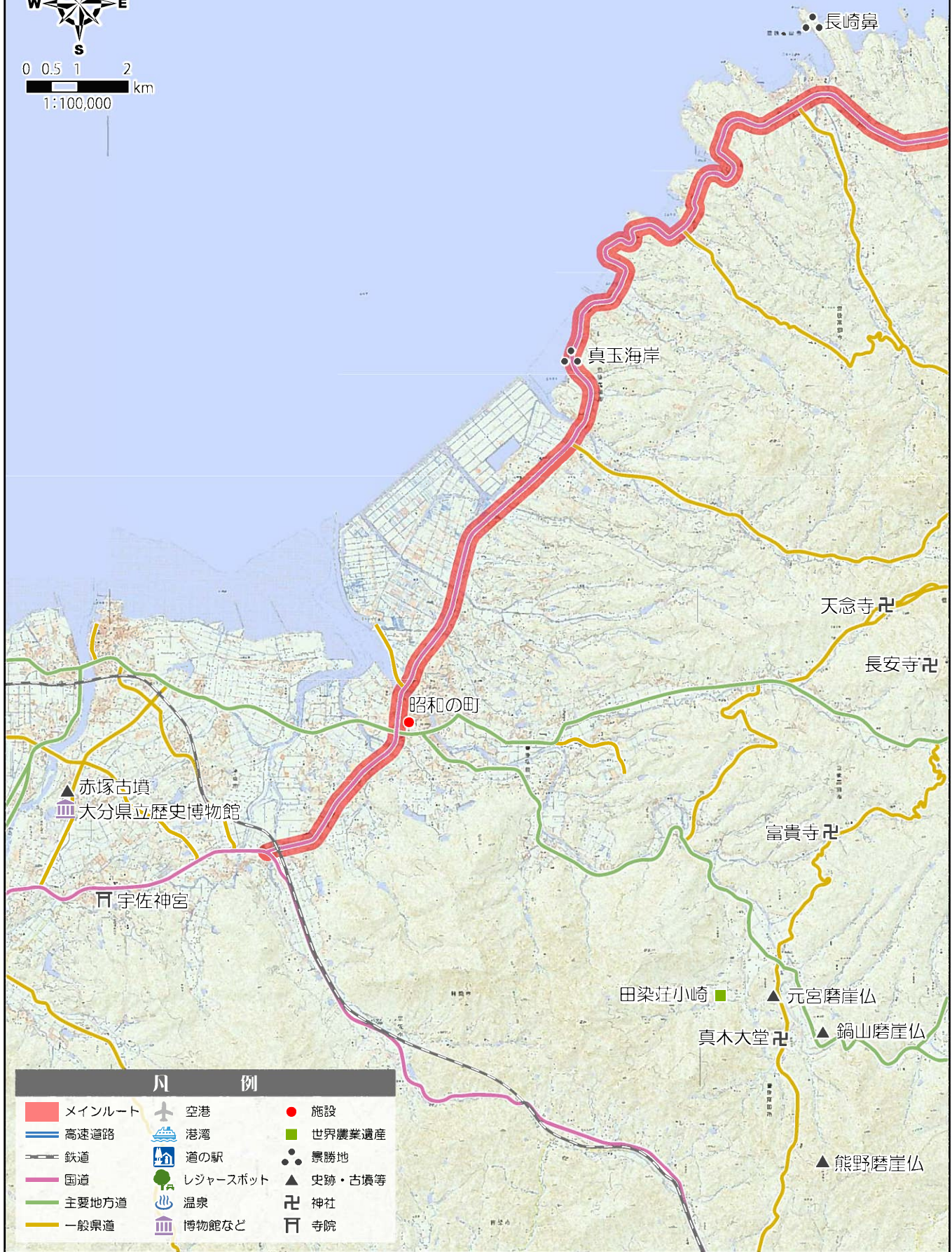
0 0.5 1 2
km
1:100,000



宇佐・豊後高田拡大



0 0.5 1 2
km
1:100,000

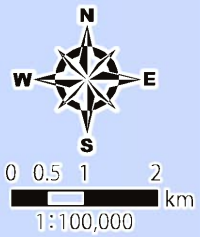


凡 例			
	メインルート		施設
	高速道路		世界農業遺産
	鉄道		景勝地
	国道		史跡・古墳等
	主要地方道		神社
	一般県道		寺院
	空港		
	港湾		
	道の駅		
	レジャースポット		
	温泉		
	博物館など		

杵築拡大

凡 例

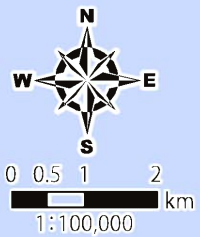
- | | | | |
|--|----------|--|--------|
| | メインルート | | 国道 |
| | 高速道路 | | 主要地方道 |
| | 鉄道 | | 一般県道 |
| | 空港 | | 施設 |
| | 港湾 | | 世界農業遺産 |
| | 道の駅 | | 景勝地 |
| | レジャースポット | | 史跡・古墳等 |
| | 温泉 | | 神社 |
| | 博物館など | | 寺院 |



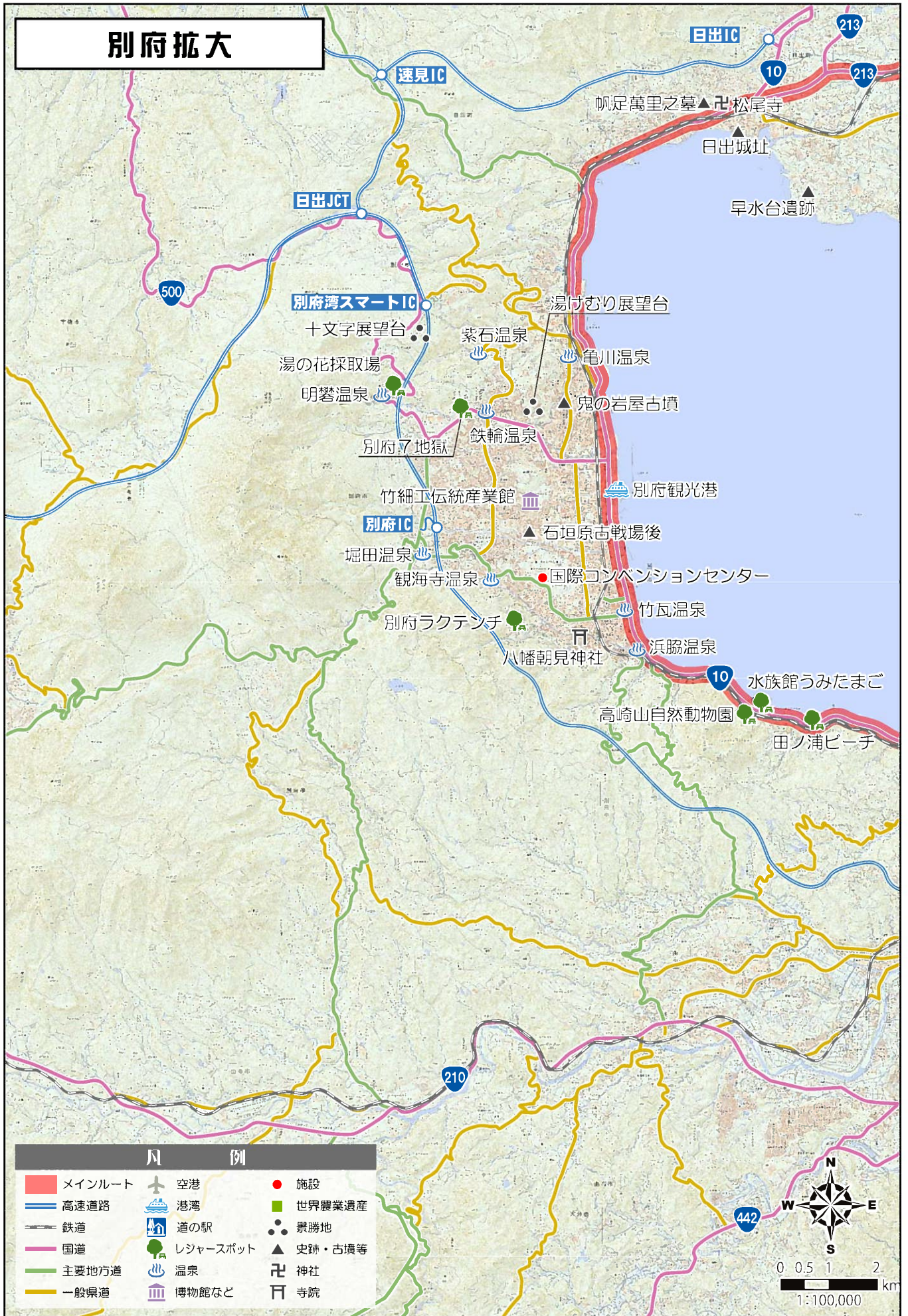
杵築拡大

凡 例

- | | | | |
|--|----------|--|--------|
| | メインルート | | 国道 |
| | 高速道路 | | 主要地方道 |
| | 鉄道 | | 一般県道 |
| | 空港 | | 施設 |
| | 港湾 | | 世界農業遺産 |
| | 道の駅 | | 景勝地 |
| | レジャースポット | | 史跡・古墳等 |
| | 温泉 | | 神社 |
| | 博物館など | | 寺院 |



別府拡大

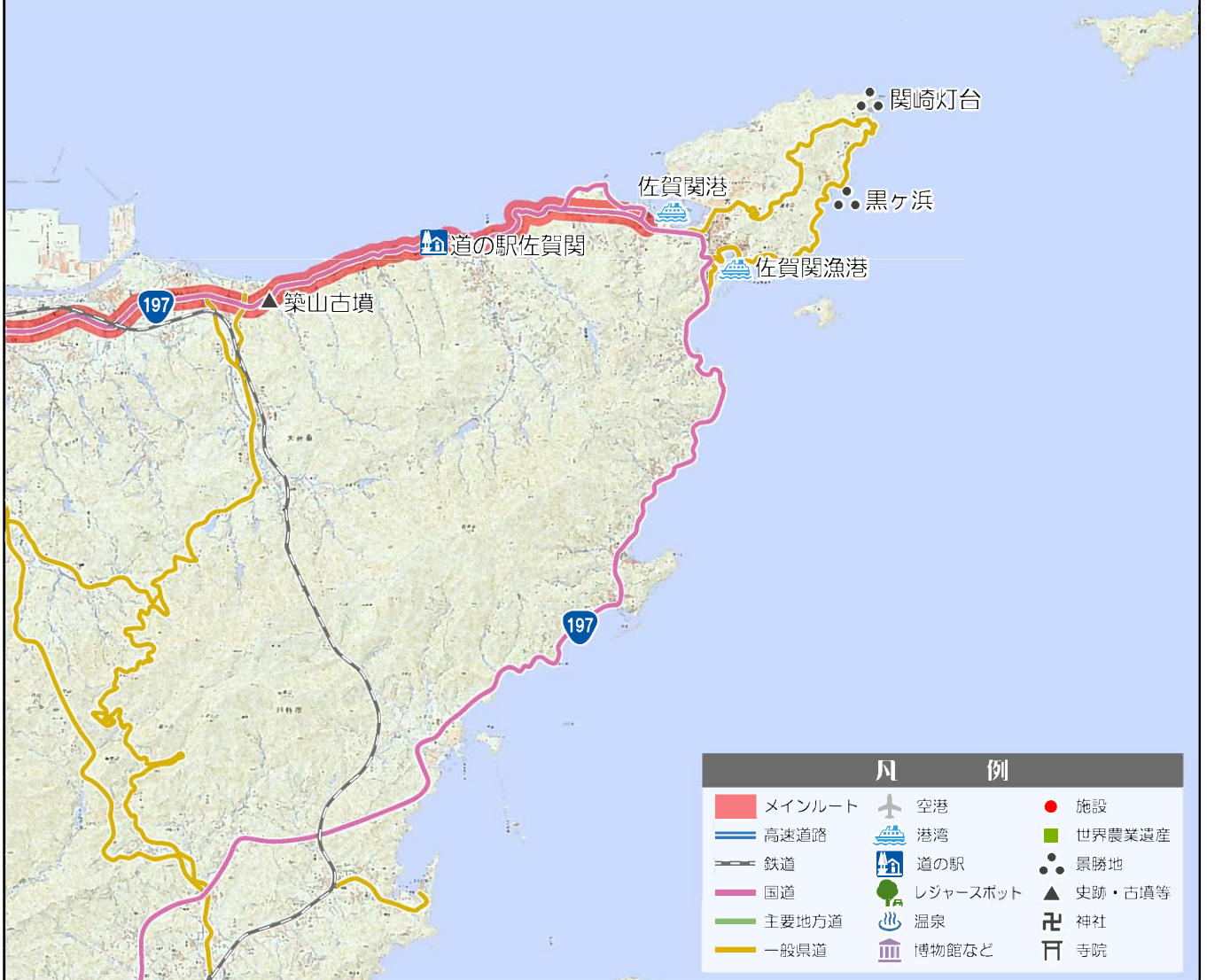
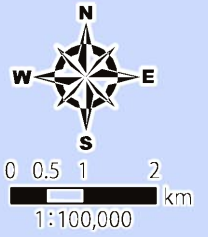


凡例

- | | | |
|--------|----------|--------|
| メインルート | 空港 | 施設 |
| 高速道路 | 港湾 | 世界農業遺産 |
| 鉄道 | 道の駅 | 景勝地 |
| 国道 | レジャースポット | 史跡・古墳等 |
| 主要地方道 | 温泉 | 神社 |
| 一般県道 | 博物館など | 寺院 |

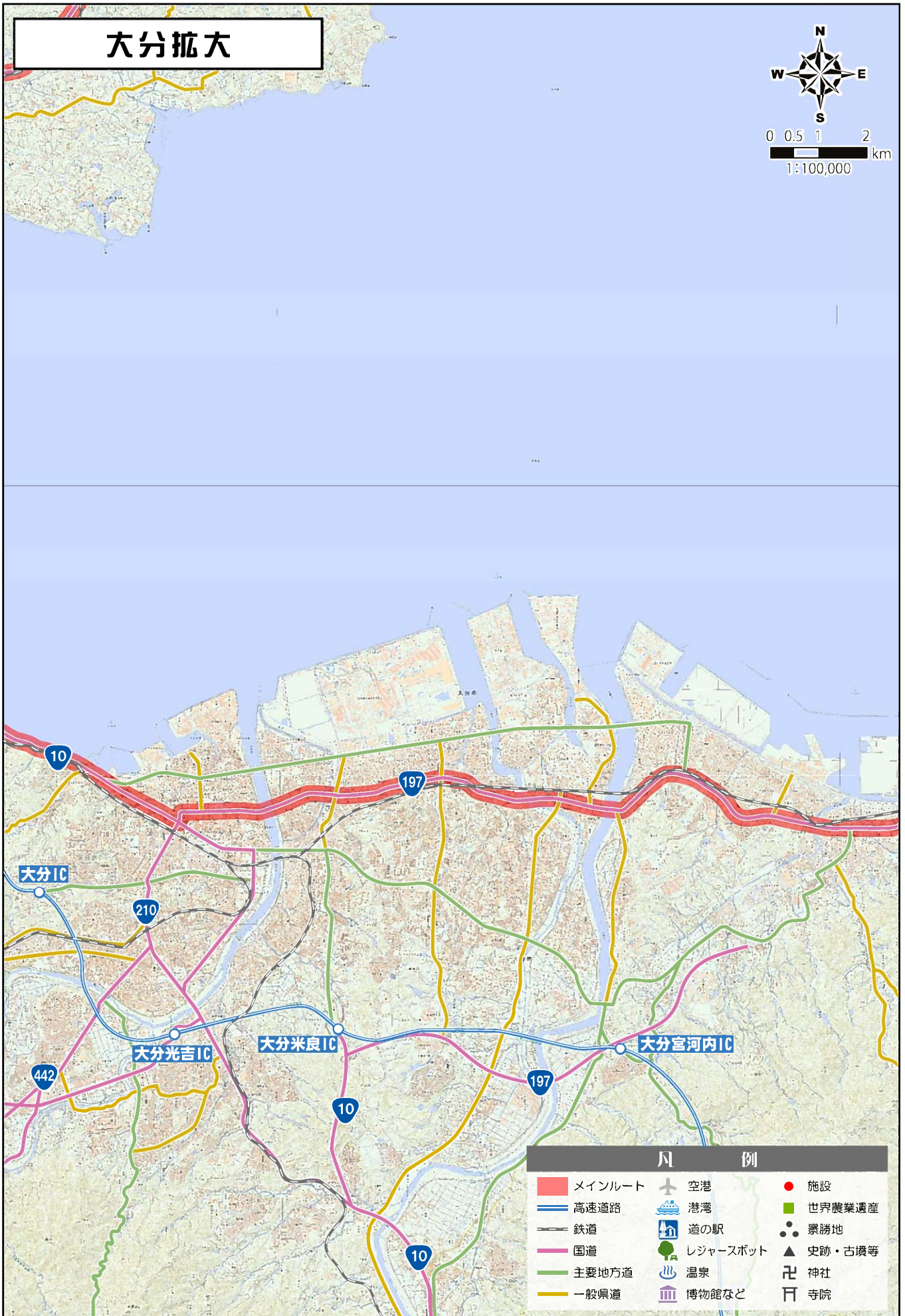
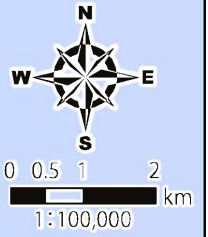


佐賀関拡大



凡 例		
■ メインルート	✈ 空港	● 施設
■ 高速道路	🚢 港湾	■ 世界農業遺産
■ 鉄道	🏠 道の駅	● 景勝地
■ 国道	🌳 レジャースポット	▲ 史跡・古墳等
■ 主要地方道	♨ 温泉	⛩ 神社
■ 一般県道	🏛 博物館など	🏯 寺院

大分拡大





MEMO



九州風景街道ガイドブック

人のくに、美のくに九州 **Q-12** 別府湾岸・国東半島海辺の道

平成29年10月16日 初版第1刷発行

著者 ルートガイド編纂委員会：樗木武、堤昌文、玉川孝道、吉武哲信、榎谷秀秋
別府湾岸・国東半島海辺の道担当（文責）：玉川孝道

発行 九州風景街道推進会議
事務局（九州地方整備局道路計画第二課内）

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。